

「社会を明るくするために」

松原市立天美小学校 6年 後藤 瑞稀

私は、社会を明るくするためには、大きなことではなくても、小さな、ささいなことをつみかさねていくべきだと思っています。そう感じたのには理由があります。

私は、学校で、「ピース プロジェクト」という総合学習に取り組んでいます。その学習は、私たち六年生で、ほかの学年の子たちを笑顔にさせて、私たちも笑顔になるということを目指した取り組みです。

そこで、私は、低学年に「げき」をしました。その「げき」が終わった後に、見てくれた子たちが、「おもしろかった!」「またやってくれる?」「ありがとう!」と言ってくれました。

その時私は、

「お礼って、ふだん何気なく言っていることだけど、言われるとこんなに温かい気持ちになるんだ」と思いました。自分の身近な人への思いやりを、一人一人がもって声をかけていけば、社会はとても明るくなるんじゃないのかな、と思いました。

しかし、残念ながら、この総合学習では、うれしい気持ちになっただけではありませんでした。その「げき」は、低学年にだけでなく、少し大きい子たちの前でもやりました。すると、三人ほどの子たちが、「ふつうやった」とか「しょうじきおもしろくなかった」などと言っていて、すごくいやな気持ちになりました。お礼を言ってもらったりして、うれしい気持ちになる反面、いやなことを言われると、当然ですがいやな気持ちになります。いまの世の中は、いやなことを言ったり、人を悪く言ったりする人が多いです。これはネットの世界、SNSなどで悪口を言うのも同じだと思います。そういうことが多いから社会が明るくならないんだと思います。中には、正しいことをできる人もいます。でも、悪い人の方が多いかぎり、正しいことをしている人の努力が全部かきけされてしまいそうで怖いです。

私は、音楽の授業で、声が大きい子が頑張って歌っていると周りもつられて、クラスが一つになってすばらしい合唱になっていったという経験をしたことがあります。そんな風に、大きな存在の子、リーダー的な存在の子が正しいことをしてみせれば、周りもつられるんじゃないか、と考えました。

そんなことをしなくても、みんな一人一人が、感謝の気持ちを人に伝え、まちがったことは言ったらだめだ、と判断できる人になれば社会はもっともっと明るくなるんじゃないかなと思いました。そのためには、まずは、人と人の関係を大事にすることが大切だと思います。だめなことはだめ、とってあげられる人間関係を作り、お互いに感謝し合う関係が作れると、自分もいい気持ちになるし、相手もいい気持ちになると思います。

だから私は、社会を明るくするためには、小さな、ささいなことをつみ重ねて、自分も、相手もいい気持ちになるように努力することがとても大切だと思います。